

**R4年度草津市障害児(者)自立支援協議会定例会  
防災に関する事前アンケート ② (回答件数 52 ヲ所/複数回答有)**

★回答のカテゴリー別まとめ

**6. 障害者の災害対策で市の危機管理課に整備してほしい事(物)は何ですか？**

●個別避難計画

- ・災害時要支援者、特に医療的ケア児者や重症心身障害者などのハイリスク者に対しての災害時個別避難計画(滋賀モデル)の早期実現。危機管理課だけではなく、障害福祉課、保健所(医療的ケア児者担当)が連携し、実現させる。

●災害対応計画

- ・2011の東日本大震災で支援団として、現地ですらい経験を多数しましたが、被災地での重度障害や疾病の方々が、災害地や避難所での生活は命の危機につながるので、遅くとも3~5日程で被災地ではない県外の安全な病院や施設にヘリや自衛隊車輛等で安全に移動できる手段を計画、想定して下さい。
- ・市内の広域避難が必要な要援護者数とその移動手段、移送先を計画し、当事者には事前にイメージングしていただける様、計画と訓練を緻密にお願いしたい。
- ・災害時の対応のマニュアル整備(組織表等)・・・2人

●備蓄

- ・備蓄の準備
- ・発電機や個別スペースが確保できるパーティション等
- ・隣保館は第一次避難所ではないので、市からの食糧は優先的に届かないが、地域住民は隣保館を頼ってくるので考慮してほしい。
- ・ペースト食、トロミ剤の備蓄 大人用子供用のオムツの備蓄(障害者用として)

●情報

- ・詳しい情報を発信してもらいたい。
- ・災害時の避難行動についてわかりやすい指示をお願いします。・・・2人
- ・具体的な支援方法をもっとわかりやすく示していただきたい。
- ・地域の中で、障害者さんの避難場所が、すぐに分かるマップが欲しい。地域にどれだけの障害の方がいるのかがわかるといいかなあ。
- ・要援護者申請用紙を施設に送って欲しい。福祉避難場所となった場合の流れを知りたい。(連絡方法、食料などの配給方法など)
- ・重度心身障害の方や強度行動障害のご本人・ご家族に大規模災害時(地震・豪雨)に対して、不安に感じている事・困るだろうと思う事等のアンケート協力をお願いします。大地震や記録的な豪雨災害を想定した内容の質問を当事者・ご家族に回答していただく事から始め、危機管理の整備を進めて頂きたい。そもそも災害時に何処に・誰に SOS を出せばさえもわからず不安を抱いておられると思います。
- ・緊急時の地域避難場所一覧・連絡先
- ・障害者専用(例えばバリアーフリー)のハザードマップがあれば配布して欲しい。無ければ作成してほしい。

- ・各事業所個別での巡回点検と相談。避難場所開設の目安について教えて欲しい。
- ・行政、福祉事業所、本人（家族）、民生委員（町内会）の各自がすべきこと再度教えていただきたい。

### ●ネットワークづくり

- ・有事の際に日頃からの横のつながりが取れるように密着した草津市内のネットワーク
- ・情報共有及び救援要請に使用できるネットワークの構築
- ・要援護者の登録に関する広報、他団体への協力体制整備

### ●設備

- ・公共の建物のバリアフリーやエレベーターの確認（避難所）
- ・福祉避難所だけでなく、どんなどころにもコミュニケーションボードなど情報共有手段を整備して欲しい。
- ・避難場所のスロープの整備。歩道の整備
- ・公的などころに連絡が取れるための準備。充電できるもの。明かり。簡易テントなど
- ・場所（車いす・パニックになった子等）の確保をして欲しい。何か遊ぶもの（手持無沙汰になると唐突な行動が増えるため）
- ・草津養護学校の立地的に災害で道路が分断されると、陸の孤島になることが心配です。対策等があれば教えて欲しい。（学校とびわこ学園の入口が一本しかない。もう一本出入りできる道が欲しい。イサム塗料に抜ける道やメイプルに抜ける道など）。本校は防災備品がカー所に置くスペースがなく、バラバラに保管されている。防災があった際にはここに行けばよいといった「防災倉庫」があるとよいです
- ・個別に過ごせる宿泊施設

## 7. 通所作業所など、災害に備えて自らできることは何ですか？

### ●訓練・フローチャートの作成・見直し

- ・利用者が通所している時に災害が起こったことを想定し、家族と連絡方法の確認や引き渡し訓練、個別の避難方法（医療機関等への避難が必須など）の共有理解を確認する。
- ・ハザードマップの確認と災害を想定した避難訓練をする。・・・10人
- ・大雨・洪水・地震・火災などの災害がもし利用者が放デイにいる時に起こった時、どのように利用者を守り安全にかかわるのかを月に1回実施。
- ・方法の見直し。設備の点検
- ・組織行動計画策定と防災訓練及びそれらの定期的見直し
- ・自宅からの避難経路の確認・・・8人
- ・避難場所・・・2人
- ・二つに分けて考えています。①通所日の対策→避難通路の確保と避難場所の周知。②通所日以外の対策→職員の緊急時の連絡網とフローチャートの作成。
- ・避難マニュアル作成
- ・災害時のシミュレーション
- ・利用されておられる方の緊急連絡先の確認。避難経路の全員把握
- ・ご家族と常に火災や災害について話し合い、避難方法や避難先をそれぞれ確認し、大規模災害の時の連絡先や集合場所（病院や担当医）の確認を毎年行い話し合っておく。豪雨や台風時は事前にデイサービスを閉鎖し安全な場所で過ごしていただけるよう事前に通知している。

- ・避難訓練（火事・地震・水害）、児童生徒引き渡し訓練・・・2人  
備蓄の確保（教員生徒共持参して保管）等
- ・災害に備え、災害時の担当部署の役割、業務の再確認、準備等
- ・事業継続計画を職員全員での見直し

#### ●情報

- ・緊急連絡先などのリスト、避難計画の作成。避難先や避難経路の確認
- ・職員間で避難経路等を共有

#### ●備蓄

- ・備蓄できる物はしておく・・・2人
- ・水や食料は若干準備している・・・3人
- ・食品備蓄・・・3人
- ・衛生用品や医薬品・資材の備蓄・・・2人
- ・避難訓練で利用者に水と一食分の保存を配布

#### ●避難所の提供

- ・有事の際に通所作業所を開園して避難場所にする。
- ・避難所としての活用

#### ●ネットワーク

- ・日常で地域住民、地域組織とつながっておく。
- ・周囲地域との連携
- ・事業所が防災について想定・情報共有

#### ●自分の情報のまとめ

- ・個人情報シートの整備（既往歴や服薬の状況などが伝えられるように）。

## 8. 各自が準備できることは何ですか？

#### ●地域とのつながり・訓練

- ・事業所内、また利用者家族に対して防災意識を高めるための取組み。居住地域との繋がりづくりの必要性（災害時、障害のある人が取り残されないために）
- ・避難訓練に参加する・・・3人
- ・あらかじめ避難方法や避難経路を想定しておく・・・4人
- ・今後、医療DXとして使用中の薬を有事には開示されます。また、県内の薬局では、備蓄医薬品情報を共有するシステムがあります。皆様におかれましては服用中の薬を把握し、いつでも持ち出せるよう準備。
- ・職員間での日頃からの意思疎通（情報共有、協力体づくり）
- ・災害時連絡が来るような携帯などの登録、備蓄他準備
- ・ハザードマップ・避難所の確認。情報収集手段の確認

## ●備蓄

- ・避難グッズや緊急時に対応できるよう、日頃から準備しておく。
- ・食品備蓄・・・2人
- ・備蓄・一週間分の水と食料
- ・充電器の設置（スマホ、パソコン、明かり等）
- ・小さな備えとして生活する上で必要なものを最小限準備しておく事
- ・援助手段として使う自家用車に災害用品を備える。
- ・医療機器使用者には予備バッテリーや車両電源を備えて頂くよう通知
- ・経管栄養食や飲料水、薬や備品の備蓄は2週間以上行うよう通知
- ・災害時スタッフは自宅や家族の安全を確保し余裕が出れば利用者の安全確認や避難所を訪れ、広域避難等の支援に尽力するよう協力要請を行っている。
- ・バスタオル・タオル・毛布、飲料水など。備蓄する量がどれくらい必要か何日分を用意する方が良いか難しい問題です。

## ●家族内の情報確認・共有

- ・個別避難計画の作成
- ・災害を想定して家族への連絡方法や帰宅経路などの確認・・・4人
- ・安否確認方法の話し合いをしておく事
- ・緊急連絡表作成

## ●利用者への支援

- ・利用者さんの災害の準備やマップの作成も同時にしていかなければいけないと思う。災害はいつくるかわからないから・・・。
- ・利用者の災害に対してどのような状況となるかを（特性の表出など）しっかり把握しておくこと。

## ●情報確保

- ・薬や病気の情報、病院の情報を記載しておき支援してもらう人にしっかり伝えられるようにする。
- ・災害時の行動についての知識を周知する。
- ・防災情報メール配信サービスへの登録など。
- ・避難行動計画の作成
- ・災害に対しての訓練、行動確認
- ・就業時間内で起きた時とプライベートで起きた時の対応の違いを理解しておくこと。
- ・あらゆる立場（職場・家庭等）での自分と周りの人との安全確保の想定。
- ・家族単位で防災について、想定・情報共有、そのうえで食材・資材などの備蓄、避難行動とそれらの更新